

令和5年度

農薬管理指導士認定試験問題

(注意事項)

- 1 問題は全部で30問（12ページ）あります。
- 2 問題は全て択一式となっています。選択肢の中から正解と思うものを一つ選び、その番号を黒の鉛筆又はシャープペンシルで別紙の解答用紙に、はっきりと記入してください。
- 3 正解が二つ以上ある問題はありません。1問につき二つ以上の番号を解答用紙に記入したときには、その問題については不正解となります。
- 4 解答を訂正するときには、いったん記入した番号を消しゴムできれいに消し、上からはっきりと番号を記入するようにしてください。消し方が不十分なときには不正解となります。
- 5 試験問題の中で文字の不鮮明なところがあったときやページが欠落しているときには、静かに手を上げて係員に申し出てください。それ以外、問題の内容に関する質問にはお答えできません。
- 6 解答用紙と試験問題は別々になっていますので、解答用紙のみを提出してください。試験問題は持ち帰ることができます。

問題1 「神奈川県農薬安全使用指導指針」に関する次の記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 適用作物名等農薬の登録内容を誤認して農薬を使用することがないように、使用に際しては農薬のラベルの記載内容を必ず確認すること。
- 2 散布に使用した器具及び容器を洗浄した水は、河川等に流さず、適正に処理すること。
- 3 住宅地や住宅地に近接する農地等における農薬使用については、散布後、周辺住民に対して、農薬使用の目的、農薬散布の日時等を記した書面や看板等により周知すること。
- 4 近接作物への農薬の飛散を防止するため、植栽方法を考慮するとともに、防薬網や遮蔽植物など遮蔽物による飛散防止措置の導入を進めること。

問題2 「神奈川県農薬安全使用指導指針」に関する次の記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 農薬の使用前後には、防除器具を点検し、十分洗浄されていることを確認すること。
- 2 農薬の誤飲による中毒事故の発生を防止するため、農薬やその希釈液等を飲食品の容器等へ移し替えないこと。
- 3 農薬散布の際は、散布面積に対し過不足の生じないように、薬液量を多めに調製すること。
- 4 農薬は、専用の保管場所で鍵をかけて保管すること。

問題3 農薬管理指導士等に関する次の記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 農薬管理指導士等は、常日頃から都道府県や関係団体が主催する研修会などへの参加、農薬に関する情報の積極的な収集などによって自らの資質を向上させようとする姿勢が重要である。
- 2 農薬管理指導士等は販売業者及び防除業者の中での中核的な存在として、また、ゴルフ場における農薬の取り扱いの適正化を図るための責任者として、自らの立場を十分認識したうえでその任務に当たらなければならない。
- 3 神奈川県農薬管理指導士は、5年ごとに県が主催する更新研修を受講すれば認定を更新することができる。
- 4 農薬管理指導士認定制度は、販売者、ゴルフ場における農薬使用管理責任者などの資質向上対策の一環として、農薬の取り扱いについて指導的役割を果たすべき者を都道府県が「農薬管理指導士」等として認定する制度である。

問題4 病虫害発生予察に関する次の記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 新規の有害動植物が発見されたり、重要な有害動植物の発生状況が例年と異なるなど特異的な現象が認められた場合であって、従来と異なる防除対策が必要となるなど生産現場への影響が懸念される場合に「特殊報」が発表される。
- 2 重要な有害動植物が多く発生することが予想され、すぐにも防除する必要が認められた場合に「注意報」が発表される。
- 3 農林水産省と都道府県が協力して全国各地で主要農作物の病虫害の発生予察を行い、その情報を関係者に提供する「病虫害発生予察事業」を全都道府県において実施している。
- 4 発生予察とは、現在の病虫害の発生状況や作物の生育状況、病虫害の発生に大きな影響を与える気象などについて必要な調査を行い、これらのデータを解析して今後の病虫害発生を予測することである。

問題5 病虫害防除対策事業に関する次の記述のうち、[] にあてはまる語句の組合せとして、正しいものを一つ選びなさい。

食料の安定供給の確保や農業の持続的な発展を図るため、病虫害防除については、天敵やフェロモンを利用した [ア] 防除、粘着板などを利用した [イ] 防除及び化学合成農薬による防除を組合せ、環境負荷を低減しつつ病虫害の発生を経済的被害が生じるレベル以下に抑制する総合的病虫害・雑草管理 [ウ] への取り組みを推進している。

- | | [ア] | [イ] | [ウ] |
|---|-------|-------|-----------|
| 1 | 耕種的 | 生物的 | (I P M) |
| 2 | 生物的 | 物理的 | (I P M) |
| 3 | 耕種的 | 物理的 | (G A P) |
| 4 | 生物的 | 耕種的 | (G A P) |

問題 6 植物防疫に関する次の記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 防除の内容が明らかでまん延リスクが高い病害虫については、あらかじめ緊急防除実施基準を定め、公表することにより、事前周知期間を短縮し、より迅速に緊急防除を開始できる。
- 2 緊急防除については、植物防疫法第十七条に規定されているが、現在までに緊急防除が発動された事例はない。
- 3 近年の経済のグローバル化や流通の発展に伴い、我が国に輸入される農林産物の種類が多様化し、国内に発生していない新たな病害虫が侵入するリスクが増大している。
- 4 植物防疫所に配置された植物防疫官が輸入検疫、輸出検疫、国内検疫、緊急防除などの植物検疫業務を実施している。

問題 7 農薬の登録に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- 1 農薬の登録は銘柄ごとに行うが、同一有効成分であれば、剤型（粉剤、粒剤、水和剤、乳剤等の別）、有効成分の含有濃度、製造会社等が異なっても、別々に登録を受けなくてもよい。
- 2 農林水産大臣及び環境大臣が指定する特定農薬についても、製造する場合は農林水産大臣の登録を受けなければならない。
- 3 登録事項のうち、適用病害虫の範囲、使用方法、農薬原体及び被害防止方法を変更する必要があるときは当該変更の登録を農林水産大臣に申請しなければならない。
- 4 農薬は、登録時に、その効果と安全性を審査した上で登録されるため、再評価を行う必要はない。

問題 8 薬剤に関する次の記述のうち、農薬取締法第三条第一項に基づき特定農薬として指定されているもののうち神奈川県内で使用できる組合せとして、正しいものを一つ選びなさい。

- 1 重曹、天敵（県内で採集されたもの）、食酢
- 2 重曹、次亜塩素酸水（塩酸又は塩化カリウム水溶液を電気分解して得られるものに限る）、酢酸
- 3 食塩、天敵（県内で採集されたもの）、食酢
- 4 食塩、エチレン、酢酸

問題 9 次の農薬のうち、農薬取締法第二十六条により指定された水質汚濁性農薬に該当するものを一つ選びなさい。

- 1 チウラム
- 2 1, 3-ジクロロプロペン (D-D)
- 3 シマジン
- 4 チオベンカルブ (ベンチオカーブ)

問題 10 薬剤に関する次の記述のうち、農薬取締法で定義されている農薬として、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 農作物に直接間接に有害な生物を捕食する生物
- 2 ブドウを種なし化する薬剤
- 3 家畜に寄生する寄生虫を駆除する薬剤
- 4 農作物を害する雑草を防除する薬剤

問題 11 農薬取締法第二十五条第一項の規定に基づき定められた「農薬を使用する者が遵守すべき基準」に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- 1 登録された農薬は安全性が確認されているので、食用農作物又は飼料作物への使用に当たっては、農薬の容器又は包装に表示されている適用作物以外にも使用することができる。
- 2 農薬を使用したときは、使用した日や場所、作物、農薬の種類や量を記帳すれば、使用した農薬の単位面積当たりの使用量又は希釈倍数は記帳する必要はない。
- 3 最終有効年月を過ぎた農薬のうち、冷暗所で保管管理をしている農薬は、品質が低下しないため使用するよう努めなければならない。
- 4 住宅地周辺で農薬を使用するときは、農薬が飛散することを防止するために必要な措置を講じるよう努めなければならない。

問題 12 毒物及び劇物取締法に関する次の記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 毒物又は劇物の販売業の登録は、6年ごとに更新を受けなければ、その効力を失う。
- 2 毒物又は劇物を販売し、又は授与するには、毒物又は劇物の販売業の登録を受ける必要があるが、本店で登録を受けていれば、登録を受けていない支店、出張所などでも販売できる。
- 3 引火性、発火性又は爆発性のある毒物又は劇物であって政令で定めるものは、業務その他正当な理由による場合を除いては、所持してはならない。
- 4 この法律は、毒物及び劇物について、保健衛生上の見地から必要な取締を行うことを目的としている。

問題 13 毒物劇物営業者が毒物又は劇物を交付してはならない者の組合せとして、正しいものを一つ選びなさい。

- ア 麻薬、大麻、あへん又は覚せい剤の中毒者
イ 心身の障害により毒物又は劇物による保健衛生上の危害の防止の措置を適正に行うことができない者として厚生労働省令で定めるもの
ウ 20歳未満の者

- | | ア | イ | ウ |
|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 正 | 誤 |
| 2 | 正 | 誤 | 誤 |
| 3 | 誤 | 誤 | 正 |
| 4 | 誤 | 正 | 正 |

問題 14 毒物の容器及び被包における表示の方法に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- 1 「医療用外」の文字及び白地に黒色で「毒物」の文字を表示
- 2 「医薬用外」の文字及び黒地に白色で「毒物」の文字を表示
- 3 「医療用外」の文字及び白地に赤色で「毒物」の文字を表示
- 4 「医薬用外」の文字及び赤地に白色で「毒物」の文字を表示

問題 15 A R f D (Acute Reference Dose) に関する次の記述のうち、〔 〕にあてはまる語句の組合せとして、正しいものを一つ選びなさい。

A R f D (〔 ア 〕) とは、ヒトがその農薬を〔 イ 〕経口摂取した場合に健康に悪影響を示さないと推定される〔 ウ 〕である。

	〔 ア 〕	〔 イ 〕	〔 ウ 〕
1	急性参照用量	毎日一生涯にわたって	1年間の摂取量
2	許容一日摂取量	毎日一生涯にわたって	1日当たりの摂取量
3	急性参照用量	24時間又はそれより短い時間	1日当たりの摂取量
4	許容一日摂取量	24時間又はそれより短い時間	1年間の摂取量

問題 16 農薬の製剤化に関する次の記述のうち、〔 〕にあてはまる語句の組合せとして、正しいものを一つ選びなさい。

農薬は有効成分が防除対象に接触してはじめて効果を発揮する。農薬の有効成分の 10a 当たりの施用量は一般に〔 ア 〕であり、そのままでは〔 イ 〕な施用ができず、目的とする防除対象に接触させることができない。これを可能にするために農薬の製剤化が必要になってくる。例えば〔 ウ 〕は水に希釈されやすいように製剤化される。

	〔 ア 〕	〔 イ 〕	〔 ウ 〕
1	数 k g ときわめて大量	局所的	水和剤や乳剤
2	数 k g ときわめて大量	均一	粉剤や粒剤
3	数 g ～数百 g ときわめて少量	局所的	粉剤や粒剤
4	数 g ～数百 g ときわめて少量	均一	水和剤や乳剤

問題 17 毒性試験に関する次の記述のうち、〔 〕にあてはまる語句の組合せとして、正しいものを一つ選びなさい。

ヒトや有用生物に対する毒性を調べるために行われる毒性試験は、大きく分けて、短期間に多量の農薬を摂取した場合の毒性（〔 ア 〕毒性）と、長期間に微量の農薬を摂取しつづけた場合の毒性（〔 イ 〕毒性）を試験するものに分けられる。ヒトの健康影響を評価する場合には、食品中からの摂取による影響と食品以外から摂取する影響（〔 ウ 〕への影響）の両者を考慮する必要がある。

	〔 ア 〕	〔 イ 〕	〔 ウ 〕
1	急性	長期・慢性	農薬使用者
2	長期・慢性	急性	農薬使用者
3	急性	長期・慢性	消費者
4	長期・慢性	急性	消費者

問題 18 農薬リスクの実態に関する次の記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 調理、加工の過程で農産物中の残留農薬量は、一般的に蒸発、分解、溶出などにより減少する。一方、加熱分解しにくい農薬などでは、煮たり乾燥処理が施された場合などに食品と農薬の重量比の理由から相対的に残留濃度が増加する場合もある。
- 2 水田に施用された農薬では、通常処理後数日以内が最も田面水濃度が高くなる。このため、とくにこうした高濃度の期間における水管理には注意が必要である。
- 3 厚生労働省は、国民が日常の食事を介して食品中に残留する農薬をどの程度摂取しているかを把握するため、国民健康・栄養調査を基礎としたマーケットバスケット調査方式による1日摂取量調査を実施している。
- 4 現在登録のある農薬についても、連用することにより土壌蓄積がすすみ、作物に残留する恐れが高い。

問題 19 農薬の作物への付着に関する次の記述のうち、〔 〕にあてはまる語句の組合せとして、正しいものを一つ選びなさい。

作物の表面は一般に毛茸やワックス等に覆われているため、散布粒子の表面張力を〔ア〕ことで付着しやすくするほうがよい。

一般に、〔イ〕散布粒子のほうが均一に付着しやすく、〔ウ〕散布粒子は付着むらが生じやすい（実際には散布操作の良否のほうが大きく影響する）。浸透移行性の〔エ〕農薬ほど付着むらに左右されにくい。

	〔ア〕	〔イ〕	〔ウ〕	〔エ〕
1	下げる	大きい	小さい	低い
2	下げる	小さい	大きい	高い
3	上げる	大きい	小さい	高い
4	上げる	小さい	大きい	低い

問題 20 収穫時期が近い農作物への飛散防止対策に関する次の記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 飛散は互いが加害者にも被害者にもなるが、作物の収穫時期を知ることは相互の対策を考える上で不可欠である。
- 2 既に栽培が行われている場合は境界付近を非散布区域とし、これから栽培する場合は境界域に最低限の緩衝地帯を作るなどの対応が有効である。
- 3 小規模な畑であっても散布時に一時的にシートで覆うなどの対策は有効でない。
- 4 周辺作物にも登録（残留基準）がある農薬を選ぶことができれば安心度は高まる。

問題 21 農薬散布の注意事項に関する次の記述のうち、〔 〕にあてはまる語句の組合せとして、正しいものを一つ選びなさい。

散布液は〔ア〕調製する。農薬散布は、微風条件下でも、風を背にして〔イ〕の方向に〔ウ〕向きに進行するよう行う。

	〔ア〕	〔イ〕	〔ウ〕
1	一度で使い切るように	風下	前
2	不足のないよう多めに	風上	後ろ
3	不足のないよう多めに	風上	前
4	一度で使い切るように	風上	後ろ

問題 22 農薬を使用する際の保護具に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- 1 粉剤の捕集効率、農薬用マスクとタオル3枚では同等である。
- 2 一般のサングラスでも、農薬散布時に発生する飛来粉じんや噴霧された薬液が目に入ったり、また、誤って農薬が目に入らないようにするための保護具となる。
- 3 防除作業による熱中症を避けるため、防除衣は農薬を浸透させないことよりも涼しく着られる特性を優先する。
- 4 経皮毒性の高い農薬の散布や粒剤の手散布には不浸透性の手袋が必要となる。

問題 23 農薬の飛散の実態に関する次の記述のうち、[] にあてはまる語句の組合せとして、正しいものを一つ選びなさい。

風速が強いほど飛散量は[ア]、かつ到達範囲が[イ]。また、散布粒子が[ウ]ほど風の影響を受けやすくなる。

- | | [ア] | [イ] | [ウ] |
|---|-------|-------|-------|
| 1 | 多くなり | 狭くなる | 大きい |
| 2 | 少なくなり | ひろくなる | 細かい |
| 3 | 少なくなり | 狭くなる | 大きい |
| 4 | 多くなり | ひろくなる | 細かい |

問題 24 植物病原に関する次の記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 ウイルスは核タンパク質で、他の生物のように細胞を持たない。また、自らの力で宿主植物体に侵入する機能を持っていないので、昆虫による媒介や傷口などから植物体に侵入する。
- 2 糸状菌の基本的な器官は、栄養器官としての菌糸体と繁殖器官としての胞子から成り立っている。
- 3 細菌の多くは2分裂によって増殖し、好適な環境下では短時間に多数の新細胞を生産する。植物組織への侵入は、気孔などの自然開口部と管理作業などによる傷口からであり、細菌自ら植物表皮組織を破壊して侵入することはできない。
- 4 植物の病原であるウイロイドは外皮のない裸の核酸で、これによって引き起こされる病気は最も多い。

問題 25 植物病害の化学的防除に関する次の記述のうち、〔 〕にあてはまる語句の組合せとして、正しいものを一つ選びなさい。

化学的防除の主体は〔ア〕による防除であるが、発病が進む前にタイミングを逃さないように散布するのが、効果的な防除を行う上で最も重要である。また、単一薬剤への過度の依存は〔イ〕の出現・優占化を促す。そのため、〔ウ〕の異なる薬剤をローテーション散布を行うなど同一薬剤の連用を避けたり、耕種的防除、物理的防除、生物的防除を組み合わせた〔エ〕を心がける必要がある。

	〔ア〕	〔イ〕	〔ウ〕	〔エ〕
1	微生物農薬	病原菌の新たなレース	適用病害	総合防除
2	微生物農薬	薬剤耐性菌	作用機構	散布技術
3	殺菌剤	薬剤耐性菌	作用機構	総合防除
4	殺菌剤	病原菌の新たなレース	適用病害	散布技術

問題 26 害虫の発生変動に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- 1 殺虫剤散布は害虫の発生変動に大きな影響を及ぼさない。
- 2 生物的要因として大きい役割を持っているのは天敵である。
- 3 地球温暖化現象や熱帯の昆虫が越冬できるような人工的な施設が多くなったことと関連して、害虫の南進現象が顕著に見られている。
- 4 気象要因については、温度、湿度、風、降雨その他があるが、好適条件は各種害虫すべてについて共通である。

問題 27 物理的防除法に関する次の記述のうち、〔 〕にあてはまる語句の組合せとして正しいものを一つ選びなさい。

光に誘引される昆虫種は多い。それらの昆虫は主として〔 ア 〕の光に走光性を示す。畑作物などでは有翅アブラムシ類の飛来を防止するために〔 イ 〕のプラスチックフィルムによるマルチングが行われる。

〔 ウ 〕を通さないプラスチックフィルムが開発され、これをハウスの被覆材とすることによって一部の病害の発生を抑制することができるが、同時にハウス内におけるミナミキイロアザミウマなど数種害虫の発生を抑えることもできる。

アブラムシ類やオンシツコナジラミは〔 エ 〕に誘引されて集まる性質を持ち、これを利用した防除資材として粘着トラップが開発され、実用化されている。

	〔 ア 〕	〔 イ 〕	〔 ウ 〕	〔 エ 〕
1	青色～近紫外部	銀色	紫外線	黄色
2	青色～近紫外部	黒色	赤外線	青色
3	赤色～赤外部	黒色	赤外線	黄色
4	赤色～赤外部	銀色	紫外線	青色

問題 28 雑草名と雑草の分類の組合せとして、正しいものを一つ選びなさい。

	水田一年生雑草	水田多年生雑草	畑多年生雑草
1	クログワイ	タイヌビエ	スギナ
2	コナギ	オモダカ	スギナ
3	オモダカ	クログワイ	メヒシバ
4	タイヌビエ	コナギ	メヒシバ

問題 29 除草剤の作用特性に関する次の記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 除草剤の作用特性の一つとして、広葉植物に害が強く、イネ科植物に害が少ない広葉選択性がある。
- 2 除草剤は一般に高温ほど活力が高まるが、その度合が著しい場合、作物に薬害を起こす。
- 3 雑草の生育ステージと殺草力との関係から殺草幅が示され、「発生前から3葉期まで」のような使用時期が示される。
- 4 除草剤の土壌中の移動性は、黒色火山灰土のように有機質の多い土壌では移動性が大きく、砂質がかった土壌、水もちの悪い土壌では小さい。

問題 30 除草剤に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- 1 畑では中～後期に使える除草剤が少ないため、中耕や手取り除草と組み合わせることが多い。
- 2 水稲用除草剤の一発処理剤は一年生雑草のみに対して有効であり、抑草期間は約 10～15 日と短い。
- 3 除草剤は雑草の発生前もしくは発生始期に土壌表面に散布する土壌処理剤のみである。
- 4 除草剤の残効性は気温の影響を受け、冬期は短くなる場合が多い。

令和5年度農薬管理指導士認定試験

正 答

受講番号	氏 名

問題	正答番号	問題	正答番号	問題	正答番号
1	3	1 1	4	2 1	4
2	3	1 2	2	2 2	4
3	3	1 3	1	2 3	4
4	2	1 4	4	2 4	4
5	2	1 5	3	2 5	3
6	2	1 6	4	2 6	2
7	3	1 7	1	2 7	1
8	1	1 8	4	2 8	2
9	3	1 9	2	2 9	4
1 0	3	2 0	3	3 0	1
				※	

※欄には何も記入しないこと。